

氏名	三木 貴子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 乙第4484号
学位授与の日付	平成29年12月27日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Effects of pre-surgical administration of prostaglandin analogs on the outcome of trabeculectomy (プロスタグランジン関連薬が線維柱帯切除術の成績に与える影響)
論文審査委員	教授 木股敬裕 教授 千堂年昭 准教授 北村佳久

学位論文内容の要旨

緑内障の唯一確実な治療法は眼圧下降である。薬物で目標眼圧が達成できない場合に手術が考慮される。線維柱帯切除術は、強膜弁下に輪部組織の切除を行い新たな房水流出路を作製する手術であるが、長期的な眼圧下降を維持するためには濾過部位の癒着を制御することが重要となる。一方、点眼の第一選択薬であるプロスタグランジン (PG) 関連薬は、上眼瞼溝深化 (DUES) をはじめ眼局所合併症を惹起しやすい。今回、術前 PG 関連薬の種類により術後成績に違いを生じる可能性と、DEUS の有無の関連について検討した。PG の種類では、ビマトプロスト使用群が有意に成績不良であった。DUES 群は非 DUES 群と比較して有意に成績不良であり、DEUS 群ではビマトプロスト使用眼が 50% にのぼった。ビマトプロストで術後成績が不良になる要因に DUES の影響が推察された。DUES 眼の線維柱帯切除術施行の際には、術後の眼圧管理を注意深く行う必要があると考えられた。

論文審査結果の要旨

緑内障の治療には、眼圧を下げるプロスタグランジン (PG) 関連点眼と、点眼効果が少ない場合の手術療法がある。一方、PG 点眼の副作用として眼瞼の質的変化 (DUES) や手術部位への影響などが報告されている。本研究は、各種市販 PG 関連点眼材が、線維柱帯切除術 (眼圧下降目的) の術後成績に与える影響を検討したものである。

4 種類の点眼材、試用期間、併用薬の種類と数、年齢、性別、手術前 DUES の有無などと、術後 24 ヶ月までの眼圧再上昇を含めた手術治療成績との関係を後方視的検討した。その結果、投与した点眼材の種類が、DUES と術後成績に強く関連してくる可能性があることが統計学的に認められた。

本結果は、今後の緑内障の患者に対する治療において、非常に重要な情報となりうるものである。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。